



原小だより



学校教育目標

- ・心豊かな子
- ・たくましい子
- ・自ら学ぶ子

10月号

令和8年9月30日

さいたま市立原山小学校

「音楽を通して育つもの」

校長 財部 幸樹

放課後、校長室で仕事をしていると、金管楽器の音色が聞こえてきます。力強く響く音、美しくそろったハーモニー。思わず耳を傾けてしまいます。しかし、その演奏を聴きながら私が思うのは、上手な演奏そのものではありません。その音の向こうにある子どもたちの努力や成長した姿です。

私は、金管バンドクラブの保護者説明会で、私自身の家庭の話をさせていただいています。二人の子がおり、ともに小学校時代に金管バンドに関わっていたこと。娘はその後も音楽を続け、現在も社会人の楽団でトランペットを楽しんでいること。一方、息子は中学校からバドミントンに打ち込み、今は大学生として学業に励む傍ら、バドミントンの部活動指導員として指導に関わっていること。

二人は全く違う道を歩んでいます。しかし親として振り返ったとき、小学校での金管バンドの経験が二人の根っこになっていることを強く感じます。思うように演奏できず悔しい思いをすること、仲間と心をつなげて一曲をつくり上げること、人前で演奏する緊張感、そして、演奏が終わった瞬間の何とも言えない達成感。そうした経験の一つ一つが、自分を信じて挑戦する気持ちや、仲間とともに歩む心、そして誰かのためにという想いを育ててくれたのだと思います。

原山小学校の金管バンドクラブの子どもたちも、今まさにそのような日々を積み重ねています。本番の演奏は華やかに見えますが、その裏には地道な練習があります。山下教諭の指導の下、何度も繰り返し練習し、音を合わせ、時には思うようにいかず悩みながらも前へ進んでいます。私はその姿を見るたびに、「人を感動させる演奏」とは技術だけで生まれるものではないのだと感じます。子どもたちは、「聴いてくださる方に喜んでほしい」「感動を届けたい」とロクに話してくれます。その思いがあるからこそ、演奏は人の心に届くのでしょう。

今年度も、運動会練習でのファンファーレ演奏や浦和まつりでのパレード演奏など、様々な場面で活躍しています。演奏を聴いた方の中には、元気をもらった方や心が温かくなった方もいたのではないのでしょうか。子どもたちは、自分たちの演奏によって誰かの心を動かす経験を少しずつ積み重ねています。これからも「校内音楽会」「はらやま音楽祭」「さいたま市小学校管楽器連盟演奏発表会」、そして「金管お別れコンサート」と発表の機会が続きます。演奏の出来栄だけでなく、そこに至るまでの努力や成長にも目を向けながら、子どもたちを温かく応援していただければ幸いです。

そういえば、今年のはらやま音楽祭には社会人の楽団が出演すると聞いています。もしかすると…。

自戒「春夏秋冬」(出典不明)

春…人と接するときは、春の暖かな日差しのように

夏…事を進めるときは、夏の太陽のような情熱をもって

秋…ものを考えるときは、秋の空のように澄んだ心で

冬…自分をふりかえるときは、冬の寒さの厳しさをもって

校外学習が多く計画されている9月から10月。校外学習実施後は「楽しかった」だけではなく、「校外学習だからこそ学べたこと」をじっくりと考え、学習に活かしていきたい。

ものを考えるときは、秋の空のように澄んだ心で。

